

# 中小企業のイノベーションの 在り方に関する有識者検討会 第二回（事務局資料①）

2023.1.19

検討会事務局

# 第一回検討会での委員からの意見

- 第一回検討会において、委員よりターゲットのフォーカス、コア技術の見極めの必要性、技術戦略策定の必要性等に関する御意見を頂戴した。

## ◆ ターゲットに関する意見

- 中小企業の中のどこにフォーカスして議論していくのかを定める必要がある。
- 全体の底上げなのか、それとも象徴的なスーパー中小企業を戦略的に作っていくのかといった議論も必要。

## ◆ コア技術（基盤技術）に関する意見

- **自社のコア技術等を認識できていない企業が多い。** 自社技術の相対的評価、市場の将来性、自社技術の他市場への応用可能性を認識できていないケースもある。
- 革新性の高い技術開発に**必要な基盤技術を持っている中小企業が少ない。** Go-Tech（サポイン）事業を活用する企業は基盤技術を確立しているが、そうでない企業をどのように育てるかは難しい。
- **他産業への自社技術の応用について外部から助言する仕組みがあるとよい。**
- 自社技術に対する認識（技術水準、先端技術への応用可能性等）を経営者自身が深める必要がある。

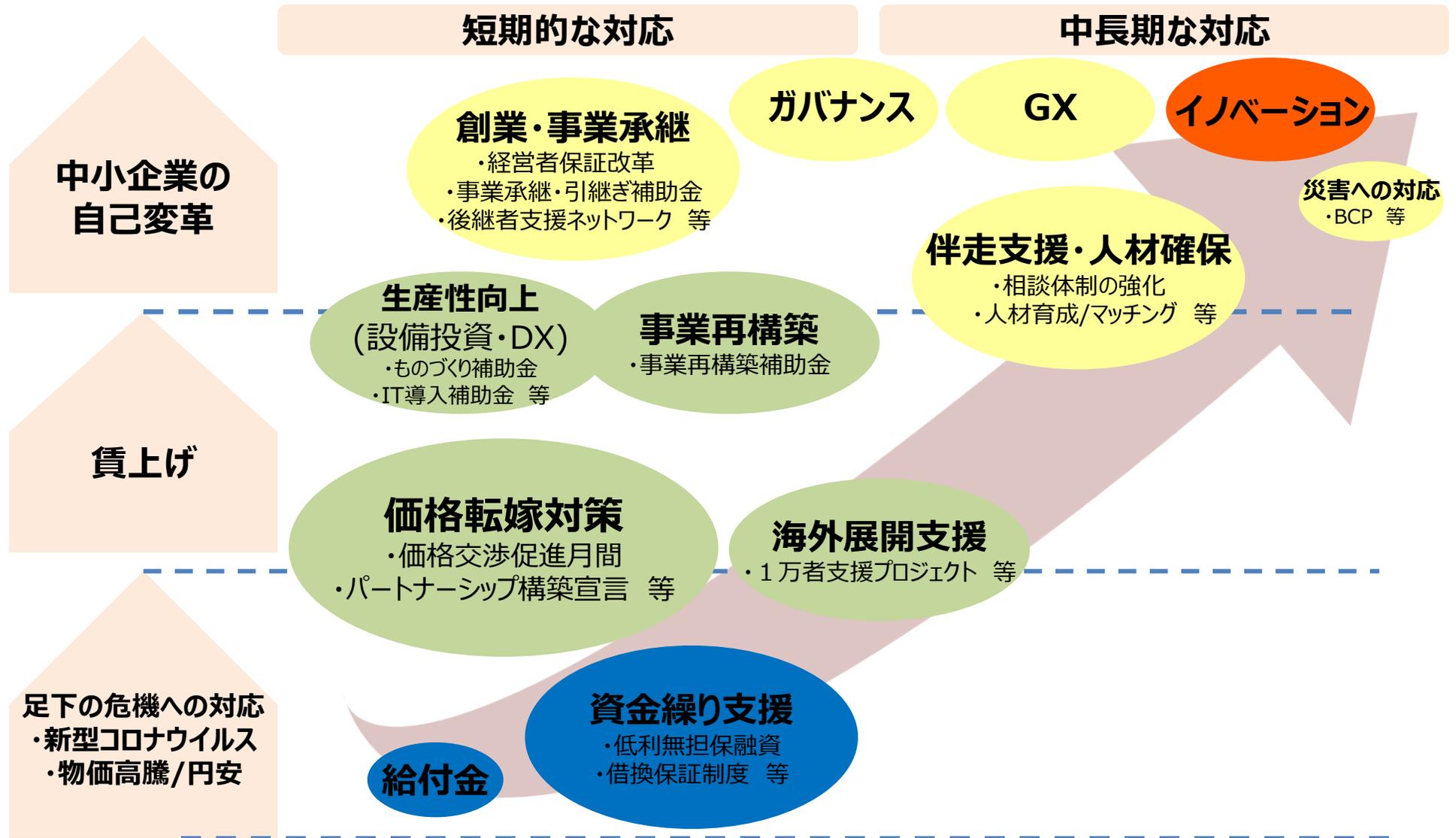
## ◆ 技術戦略に関する意見

- **経営戦略、技術戦略を持っていない中小企業が多いのではないか。** 技術戦略の策定明確化のフォローを地域ごとに行う必要がある。
- 金融機関も事業計画だけでなく技術戦略を指導するような役割を果たせないか。
- **良いイノベーションであっても、勝手に拡大していくことはない。** 政府調達や大企業による調達の促進、大企業によるM&Aの促進などの**出口支援が必要。**

## ◆ コーディネーターに関する意見

- 地域横断のコーディネーターを設ける方法は良いが、そのコーディネーターをどこにどう配置するかが問題である。地方公設試との連携が必要になる。技術面及び経営面の両方でコンサルティングできる人材を配置する必要がある。
- **自社技術に対する認識（技術水準、先端技術への応用可能性等）を経営者自身が深めるためのサポート体制**を地域ごとに設置し、技術＋経営という目線でコンサルティングできる人材を配置する必要がある。

# 【参考】中小企業政策におけるイノベーションの位置付け



# 本検討会で対象とするイノベーションの考え方

- 国内・海外市場に新しい製品・サービスを提供する**成長志向企業を主要ターゲット**としてはどうか？

## 検討対象となる企業

	製造業	非製造業
成長志向型	1st ターゲット	
安定志向型	2nd ターゲット	
現状維持型		

- グローバル展開により地域の中核企業に成長する企業
- 差別化される独自技術を用いてサプライチェーンの中核ポジションを確保できる企業
- イノベーションによる付加価値の向上や中堅企業への成長をめざす企業